

2023年8月27日

年間第21主日

菊地功大司教 メッセージ

「それでは、あなた方はわたしを何者だというのか」と弟子たちに迫るイエスの言葉は、わたしたちひとり一人への問いかけでもあります。

「あなた自身はわたしのことをどう考え、どう判断しているのか。自分自身の決断をここで明確にしろ」と、迫力を込めてイエスは迫ってきます。そしてそれは、今の時代に生きているわたしたちだからこそ、真摯に答えなくてはならない問いかけです。

なぜでしょうか。それはわたしたちが、あふれんばかりの情報の渦に取り囲まれて生活を営んでいるからに他なりません。いまやわからないことがあれば、ネット上でいくらでも簡単に答えを見いだすことができます。信仰についてできえも、ネット上で問いかければ、誰かが即座にわかりやすい答えを提供してくれる時代です。そんな時代にイエスは、「あなた方はわたしを何者だというのか」と問いかけます。つまりあふれかえっている情報のどこに何が述べられていたのかを知りたいのではないのです。真偽すらわからない、どこかの誰かが教えてくれた、簡単に理解できる情報ではなくて、「おまえ自身はどう考えるのか」とイエスは迫ります。

どこかの誰かが解説してくれるわかりやすいイエスの姿ではなく、自分自身がイエスと対峙して、その言葉に直接耳を傾け、具体的に、個人的に、イエスと出会う中で見いだした、「わたしのイエス」について語るように求めているのです。噂話のイエスではなくて、いまそこに生きているイエスについて語ることを求めているのです。

わたしたちがこのあふれんばかりの情報の渦の中で見聞きしていることは何でしょう。無責任な情報の垂れ流しは、前向きないのちを生きる力を生み出すよりも、いのちに対する攻撃や差別を生み出す負の力をより強く持っています。いや、実際にいのちを奪ってしまうほどの、暴力的な負の力をもって、わたしたちを、いのちの尊厳を軽んじる暗闇に引きずり込もうとしています。

わたしたちは、自分自身の言葉に責任を持って、いのちを生かす言葉を語るものでありたいと思います。

いのちを育む真理の物語は、どこかの誰かの人間的知恵から生み出されるのではなく、パウロが「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを極め尽くし、神の道を理解し尽くせよう」と記したように、人知を遙かに超えた神ご自身が語られる言葉、すなわち人となられた神の言葉である主イエスから生み出されます。主の語る言葉を、わたしたち自身の言葉として語り続けましょう。